

自然環境保全京都府ネットワーク総会のお知らせ

自然環境保全京都府ネットワークは、京都府に自然史博物館を設立するための機運を高めることを目的として、2017年から府内各地の自然環境保全に関わる市民団体が集まって活動している組織です。2023年は京都府と京都市が協働する生物多様性センターが始動する記念すべき年となります。本ネットワークでは、生物多様性センターの運営協議会メンバーとして活動をアシストしていく所存です。自然環境保全京都府ネットワークには、個人、団体を問わずどなたでも会員になれますので、3月26日(日)に開催する総会にお誘い合わせの上ご参集の上、意見交換にご参加いただければ幸いです。

日時： 2023年3月26日(日) 13:30-17:00

会場： 宇治川オープンラボ 新館1階セミナー室

註：参加費無料

近くに食堂やコンビニはありません。
飲み物は自販機があります。

プログラム(仮)

第一部 総会	13:30～14:10
1 2022年度事業報告	
2 2022年度決算報告	
3 2023年度事業計画案	
4 2023年度予算案	
第二部 講演	14:20～15:20
「伝統的河川工法による河川環境改善効果」 竹門康弘	
第三部 きょうと生物多様性センターについて	15:30～
・センターについて	
・準備室で実施してきた内容について(総括や課題)	
・意見交換等	

会場：宇治川オープンラボ
〒612-8235 京都府京都市伏見区横大路下三栖東ノ口
会場アクセス：会場案内のページ参照

参加申込不要

※大人数で参加する場合は、
事務局までメールください

natcons.kyoto.network@gmail.com

会場案内

宇治川オープンラボラトリー Ujigawa Open Laboratory

京都大学防災研究所 流域災害研究センター

トップページ

当施設へのアクセス方法

概要

住所

組織・メンバー

〒612-8235

京都府京都市伏見区横大路下三梧東ノ口

流域災害研究センター 宇治川オープンラボラトリー

施設利用・共同研究
をご検討中の方へ

京都駅から電車利用

実験装置の一覧

京都駅→(近鉄京都線)→近鉄丹波橋→(乗り換え)→丹波橋駅→(京阪本線)→中書島駅

京阪中書島駅から徒歩約20分(下図の線に沿ってお越しください。)

ミニバフレット

もしくはタクシー利用約5分(料金500円程度)

御寄付

高速道路:最寄りインターチェンジ

アクセス

第二京阪道路:巨椋池(上り)、伏見(下り)

駐車場完備

見学・取材など

公開ラボ

教職員専用

参加申込不要

※大人数で参加する場合は、事務局までメールください
natcons.kyoto.network@gmail.com

自家用車の方は、
国道1号線南行き車線を宇治川
堤防上で左折すると来れます。



註:参加費無料

近くに食堂やコンビニはありません。
昼食や飲み物は各自で用意。
防寒対策は各自でお願いします。

会場アクセスの注意点:
現在、新高瀬川の人道橋が
劣化のため公園ルートが通
れません。中書島駅から北
回りでご来場ください。

会場：宇治川オープンラボ拡大図
〒612-8235 京都府京都市伏見区横大路下三栖東ノ口

洛南道路

124

三栖向納所線

巨椋池流域
模型ビオトープ

中聖牛の設置場所

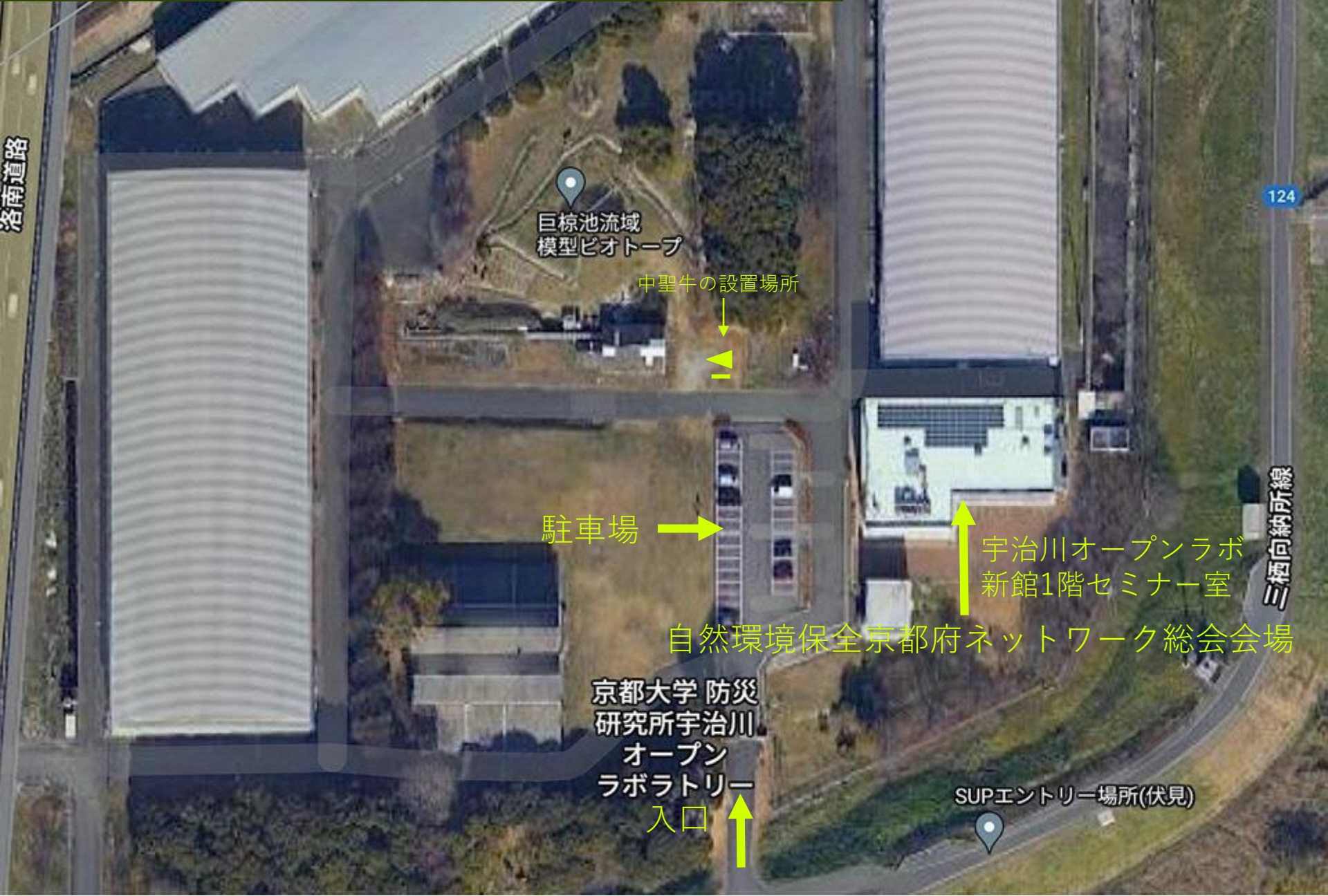
駐車場 →

↑
宇治川オープンラボ
新館1階セミナー室

↑
自然環境保全京都府ネットワーク総会会場

↑
京都大学 防災
研究所宇治川
オープン
ラボラトリー
入口

↑
SUPエントリー場所(伏見)



宇治川 O L の中聖牛

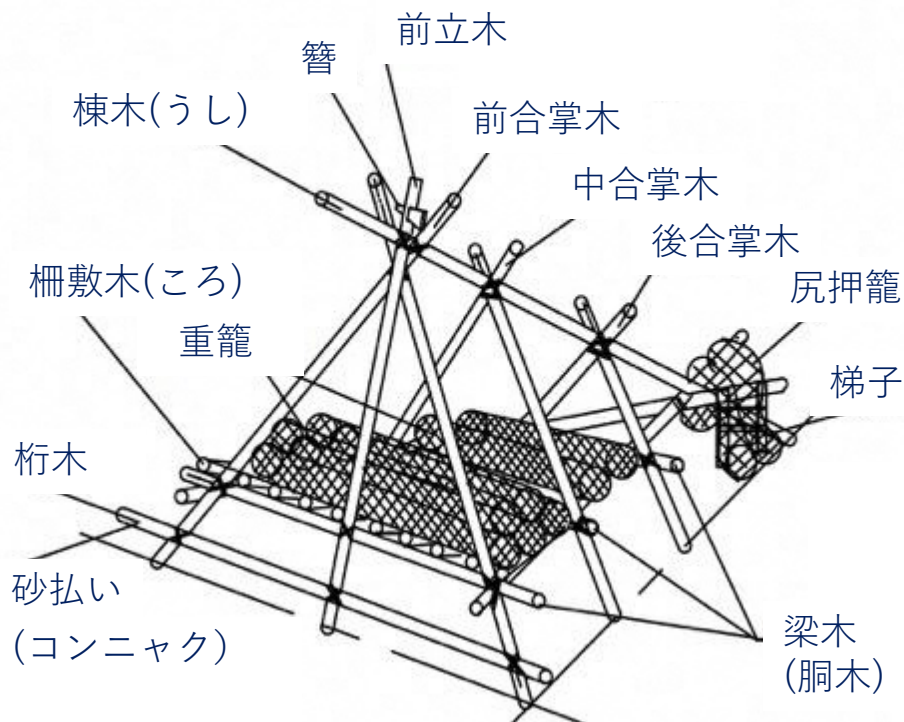
2023年2月5日完成



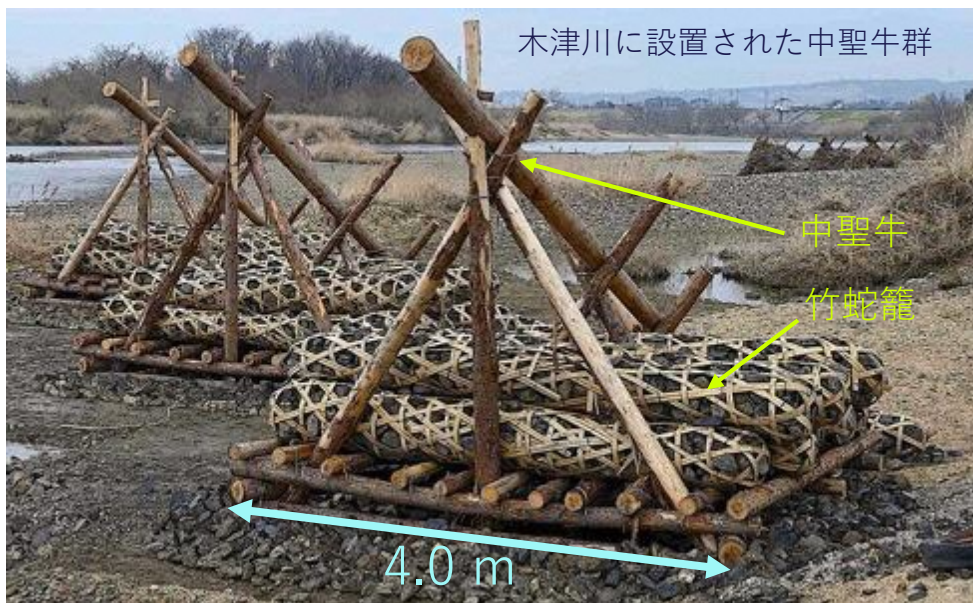
木津川に設置された中聖牛群



中聖牛の各部名称



木津川に設置された中聖牛群



中聖牛
竹蛇籠

でんとうてきかせんこうほう
伝統的河川工法
Traditional River Works

ちゅうせいぎゅう
中聖牛
Medium Crib Spur



1953年9月のJR大河原駅前の木津川に設置された中聖牛
(堀井篤氏撮影中津川敬朗氏 福井波恵氏提供)

1950年代までは、木津川でも中聖牛が河岸侵食防止と土砂堆積促進の目的で使用されていました。

The Chu-Seigyū 'Medium Crib Spur' was deployed in the Kizu River in 1950s for bank protection and sediment deposition.

この中聖牛は、日本の伝統的河川工法が世界に普及・拡散・伝承されることを祈念して設置したものです。中聖牛（ちゅうせいぎゅう）は伝統的な水制工法「牛柵」の一種です。牛柵類は戦国時代に発達し、江戸時代に全国に広まったといわれています。聖牛（ひじりうし）には、多くの種類があり、川の規模に応じて、高さが6m程度の大聖牛、4m程度の中聖牛、2m程度の川倉などが使い分けられていました。

河川生態学術研究会木津川研究グループでは、「伝統的河川工法を用いた木津川の河床地形管理手法に関する研究」（2017-22年）の一環として、伝統的工法を伝承してきた静岡県「原小組」を招聘し、「やましろ里山の会」が竹蛇籠と中聖牛の製作設置法を習得しました。現在、木津川には河川環境を改善する目的で全5群16基の中聖牛群が試験設置されており、^{2023年3月}今も河床の土砂の侵食と堆積を活性化する役割を担っています。
河川生態学術研究会木津川研究グループ
代表 竹門康弘